

教育計画表

分野	教育内容	授業科目	実務経験	単位	時間数	1年			2年			
						単位	講義	実習	単位	講義	実習	
基礎分野	科学的思考の基礎 人間と生活、社会の理解	倫理学		1	30				1	30		
		教育学		1	30				1	30		
		家族社会学		1	30	1	30					
		人間関係論	○	1	30	1	30					
		論理学		1	15	1	15					
		情報科学		1	30				1	30		
		物理学		1	15	1	15					
		英語		1	30	1	30					
		保健体育		1	15	1	15					
		基礎分野 小計				9	225	6	135		3	90
専門基礎分野	人体の構造と機能 回復の促進 疾病の成り立ちと 健康支援	解剖生理学Ⅰ	○	1	30	1	30					
		解剖生理学Ⅱ	○	1	30	1	30					
		病理学総論	○	1	15	1	15					
		病態生理学Ⅰ	○	1	15	1	15					
		病態生理学Ⅱ	○	1	30	1	30					
		病態生理学Ⅲ	○	1	30	1	30					
		病態生理学Ⅳ	○	1	30	1	30					
		微生物学	○	1	30	1	30					
		生化学	○	1	30	1	30					
		栄養学	○	1	15	1	15					
		薬理学	○	1	30	1	30					
		免疫論	○	1	15	1	15					
		社会福祉 関係法規	○	1	30					1	30	
		公衆衛生	○	1	15					1	15	
専門基礎分野 小計				16	375	12	300		4	75		
専門分野Ⅰ	基礎看護学 臨床実習	基礎看護学概論	○	1	30	1	30					
		看護の基本となる技術	○	1	30	1	30					
		生活過程をととのえる看護技術	○	2	60	2	60					
		診療に伴う看護技術	○	1	30	1	30					
		臨床看護総論	○	2	60	2	60					
		看護研究	○	1	30					1	30	
		基礎看護学実習	○	2	90	2		90				
		専門分野Ⅰ 小計				10	330	9	210	90	1	30
専門分野Ⅱ	成人看護学 老年看護学 小児看護学 母性看護学 精神看護学 臨床実習	成人看護学概論	○	1	30	1	30					
		成人看護方法論Ⅰ	○	1	30	1	30					
		成人看護方法論Ⅱ	○	1	30	1	30					
		成人看護方法論Ⅲ	○	1	30	1	30					
		老年看護学概論	○	1	30	1	30					
		老年看護方法論Ⅰ	○	1	15	1	15					
		老年看護方法論Ⅱ	○	1	30	1	30					
		小児看護学概論	○	1	30	1	30					
		小児看護方法論Ⅰ	○	1	15	1	15					
		小児看護方法論Ⅱ	○	1	30	1	30					
		小児看護方法論Ⅲ	○	1	15					1	15	
		母性看護学概論	○	1	30	1	30					
		母性看護方法論Ⅰ	○	1	30	1	30					
		母性看護方法論Ⅱ	○	1	15	1	15					
		母性看護方法論Ⅲ	○	1	15	1	15					
		精神看護学概論	○	1	30	1	30					
		精神看護方法論Ⅰ	○	1	30	1	30					
		精神看護方法論Ⅱ	○	1	30	1	30					
		成人看護学実習	○	2	90					2		90
		老年看護学実習	○	2	90					2		90
小児看護学実習	○	2	90					2		90		
母性看護学実習	○	2	90					2		90		
精神看護学実習	○	2	90					2		90		
専門分野Ⅱ 小計				28	915	17	450		11	15	450	
統合分野	在宅看護論 看護の実践 臨床実習	在宅看護概論	○	1	15	1	15					
		在宅看護方法論Ⅰ	○	1	30	1	30					
		在宅看護方法論Ⅱ	○	1	30	1	30					
		看護管理	○	1	15					1	15	
		医療安全	○	1	30					1	30	
		災害・国際看護	○	1	15					1	15	
		臨床看護の実践	○	1	30					1	30	
		在宅看護論実習	○	2	90					2		90
		統合実習	○	2	90					2		90
		統合分野 小計				11	345	3	75		8	90
講義 (再掲)				58	1,470	45	1,170		13	300		
臨床実習 (再掲)				16	720	2		90	14	300	630	
総合計				74	2,190	47	1,170	90	27	300	630	

基礎分野

授業科目ごとの教育内容

科学的思考の基盤 人間と生活・社会の理解

授業科目	ねらい	単位	時間	授業内容	担当講師	担当 時間 数	内 訳		
							講義	演習	実習
倫理学	医療看護における倫理の基礎について学ぶ。	1	30	1. 人間の尊厳と権利 2. 個体はどこまで自由か (社会の中の個人含む) 3. 規範倫理学の概論 4. ケアという活動 5. 医療・看護における倫理原則 6. 相手の最善 意思決定プロセス	小原拓磨	30	30		
教育学	教育の原理を基盤として、望ましい人間形成のあり方や人間の可能性を引き出すための教育の意義・方法を学習し、看護における教育機能が果たせるように学ぶ。	1	30	1. 人間の成長と教育 (教育の意義、教育の機能) 2. 教育の目的と方法 3. 教育評価 (評価の目的、評価の方法) 4. 現代教育の諸問題 (問題とその要因、問題解決に対する取り組み)	東北大学 石井大輝	30	30		
家族社会学	社会における家族の役割及び生活の場としての家族が個人に果たす役割や機能を学ぶ。	1	30	1. 現代の生活と社会 2. 現代の生活と個人 3. 家族の現代	仙台大学 三谷高史	30	30		
人間関係論	人間の発達に欠かせない他者との関わり、人間関係への発達について理解し、どのような他者との関わりが自分や相手を成長・発達させていくか演習を通し学ぶ。	1	30	1. 人間関係論の視点 2. 人間関係の発達 ・現代社会と人間関係 ・人間関係分析の視点 ・自己理解と他者理解 3. 人間関係と援助的コミュニケーション 4. 人間関係のスキルトレーニング 5. カウンセリング理論と技法	亀倉大地	30	22	8	
論理学	問われている事柄を言葉で的確に把握し、構造を分析し、さらにその事柄について明確で適切な論を立てることを学ぶ。	1	15	1. 物事をことばで掴む 2. なにかについて何かを述べる 3. ある命題から別の命題を導出する (直接推理) 4. 命題を組み合わせて推論する (間接推理) 5. 議論の欠陥や間違いをみつける (誤謬論)	廣瀬 覚	15	15		

情報科学	統計的な情報処理方法とITの利用方法を学び、看護に応用するための基礎的知識として理解する。	1	30	1. 情報とはなにか 2. データ収集、情報化 3. 看護への応用 4. 情報のとらえ方 (著作権、プライバシー)	仙台高等専門学校 本郷 哲	30	18	12
物理学	基礎理論を理解するとともに、人間の生活行動や作業の方法についての物理学的知識を学ぶ。	1	15	1. 人間の形態的特徴と筋力的特徴 ・力とつり合い、動体力学 ・姿勢と動作 2. 看護と人間工学 ・ボディメカニクスの意味と効果 ・人間工学的介助の方法	仙台高等専門学校 今野一弥	15	15	
英語	医療に関する英語の基礎的内容を学ぶ。 日常の診療及び看護における基礎的な英会話を学ぶ。	1	30	1. 基礎英語 2. 看護・医療で用いる英語 (診療科) 3. 看護・医療で用いる英語 (身体の部分と症状の尋ね方) 4. 日常英会話 外来での英会話、 入院生活での英会話	前田景子 仙台高等専門学校 武田 淳	14 16	14 16	
保健体育	健康・体力の保持・増進に関する知識・およびその具体的な方法を学ぶ。	1	15	1. 健康と運動 2. 健康維持・向上をめざす トレーニングチームゲーム 3. 軽スポーツ 4. ウォーキングによる運動効果 5. バドミントンの基本練習とゲーム	仙台大学 入澤 裕樹	15	15	

専門基礎分野

授業科目ごとの教育内容

人体の構造と機能 疾病の成り立ちと回復の促進

授業科目	ねらい	単 位	時 間	授業内容	担当講師	担 当 時 間 数	内 訳		
							講義	演習	実習
解剖生理学Ⅰ	人体の発生・構造について理解し、形態と機能について学ぶ。	1	30	解剖学総論 骨格系, 筋系, 循環器系, 消化器系 呼吸器系, 泌尿器系, 生殖器系, 内分泌系, 神経系および感覚	東北医科薬科大学 山本由似	30	30		
解剖生理学Ⅱ	人間の生物体としての特性を学び、身体の一部が生活者として人間をどのように支えているかを学ぶ。	1	30	1. 解剖生理学を学ぶための基礎知識 2. 消化と吸収 3. 呼吸 4. 循環 5. 血圧 6. 血液 7. 腎臓	東部保健福祉事務所 (石巻保健所) 鈴木 陽	30	30		
病理学総論	疾病のなりたち、病因、生体の反応について学ぶ。	1	15	1. 細胞・組織の障害と修復 2. 循環障害 3. 炎症と免疫 4. 感染症 5. 代謝障害 6. 老化と死 7. 先天異常と遺伝子異常 8. 腫瘍	宮城県立がんセンター 加藤 浩之 春日井 勲	15	7	8	
病態生理学Ⅰ	人間の生きる力、生活する力、人と関わる力を統括する脳の障害および感覚器の障害と治療について学ぶ。	1	15	1. 脳疾患(脳血管疾患、脳腫瘍) 2. 神経・筋疾患 (パーキンソン病等) 3. 耳鼻咽喉・頸部の疾患 4. 上顎・咽頭・喉頭がん	宮城県立がんセンター 長南雅志 宮城県立がんセンター 今井隆之	10	10		
病態生理学Ⅱ	人間が生活するうえで重要な生命を維持する機能の障害と治療について学ぶ。	1	30	1. 心不全 2. 虚血性心疾患 3. 不整脈 4. 心筋症 5. 呼吸不全 6. 間質性肺炎・慢性閉塞性肺疾患 7. 肺癌	東部保健福祉事務所 (石巻保健所) 野上慶彦 宮城県立がんセンター 福原達朗 鈴木 綾	15	15		
病態生理学Ⅲ	食物を消化・吸収する働きや代謝機能の障害と治療について学ぶ。	1	30	1. 食道癌 2. 胃十二指腸・胃癌 3. イレウス・潰瘍性大腸炎 4. 結腸, 直腸癌 5. 肝硬変・肝臓癌 6. 胆石・膵炎・膵臓癌 7. 糖尿病 8. 甲状腺疾患	宮城県立がんセンター 藤谷恒明 社の里内科クリニック 加納隆輔	16	16		
病態生理学Ⅳ	1. 人間の生命活動に直結する循環の内容に変化をもたらす血液・造血器の障害と治療について学ぶ。 2. 身体の内部環境を調節する腎・泌尿器の障害と治療について学ぶ。 3. 行動範囲を拡大する働きである運動器の障害と治療を学ぶ。	1	30	1. 白血病 2. 悪性リンパ腫 3. 腎不全、透析療法 4. 糸球体腎炎、腎癌 5. 前立腺肥大・前立腺癌 6. 骨折(大腿骨等) 7. 脊椎の疾患(ヘルニア他)	宮城県立がんセンター 佐々木 治 宮城県立がんセンター 川村貞文 宮城県立がんセンター 保坂 正美	10	10	10	
微生物学	微生物の人体への影響及び感染予防について理解することができる。	1	30	1. 微生物学の基礎 ・微生物の種類と性質 2 感染とその防御 ・感染の機構 ・感染に対する生体防御機構 ・感染経路から見た感染症 ・感染症の予防・診断・治療 ・感染症の現状と対策 3 おもな病原微生物 ・細菌感染症・真菌感染症 ・病原原虫感染症 ・ウイルス感染症	御代田恭子	30	26	4	

生化学	人体の構成成分である物質の性状と生体物質に合成と分解、相互間の化学反応の機序について理解できる。	1	30	1. 代謝とは、物質代謝とエネルギー 2. 生命維持に必要な栄養素の構造と性質 3. 糖質・脂質代謝 4. タンパク質・アミノ酸・核酸の代謝	尚綱学院大学 星 清子	30	30		
栄養学	人間にとっての栄養素の意義と臨床栄養について学ぶ。	1	15	1. 栄養状態の評価 2. 栄養素の働き 3. エネルギー代謝 4. 栄養素の消化と吸収 5. 栄養素の体内代謝、 6. 栄養ケアマネジメントの意義と方法 7. ライフステージ別の栄養・食事療法 8. 健康づくりとしての食生活のありかた	宮城県立こども病院 日野美代子	15	15		
薬理学	薬物の人体への影響について学び、臨床において安全に提供するための基本的知識を学ぶ。	1	30	1. 薬物治療の目差すもの 2. 薬物の作用と薬効 3. 感染症に関する基礎知識と各論 4. 抗がん剤 5. 末梢神経・中枢神経に作用する薬 6. 心臓・血管系に作用する薬	東北大学名誉教授 水柿道直	30	28	2	
免疫論	人体の生体防御機構とその具体的な働きについて知り、免疫機能と病気の発症や回復過程のつながり	1	15	1. 免疫機構 2. 免疫と治療3. アレルギー、 膠原病、自己免疫疾患	齋藤紀行	15	15		

健康支援と社会保障制度

学科目	ねらい	単位	時間	授業内容	担当講師	相当 時間 数	内 訳		
							講義	演習	実習
社会福祉	社会福祉の理念と基本的な制度の考え方について理解し、生活者の生活問題に対する法律の基づく社会福祉の方法と課題について学ぶ。	1	30	1. 社会福祉の変遷 2. 社会保障の概念 3. 社会福祉の法制度、社会保険制度、社会福祉サービス 4. 社会福祉実践 5. 社会福祉と医療・看護	東北福祉大学 千葉伸彦	30	28	2	
関係法規	看護に必要な法律とその根拠と内容を理解する。	1	15	1. 医療サービスの供給体制 (医事法・薬事法など) 2. 保健師助産師看護師法など	宮城県高等看護学校 松田 祐子	15	15		
公衆衛生	環境が人間に及ぼす影響を学ぶ。 公衆衛生の基本的内容、生活者の健康増進に対応した法制度及び保健活動について学び、看護の役割について考える。	2	30	1. 公衆衛生のエッセンス 2. 公衆衛生の活動内容 3. 公衆衛生のしくみ 4. 環境と健康 5. 国際保健 6. 集団の健康をとらえるための手法 —疫学 7. 地域保健 8. 学校と健康 9. 職場と健康 10. 健康危機管理・災害保健	仙台保健福祉事務所 (塩釜保健所) 西條 尚男 他	30	30		

専門分野 I「基礎看護学」

目的

人間のライフサイクルにおける健康の意義, 保健医療福祉チームにおける看護の機能と役割について理解し, 看護の実践力となる基礎的能力を身につける。

目標

- 1 看護の概念(目的・対象・役割・方法)を理解する。
- 2 専門職業人としての態度を身につけ, 倫理に基づいた行動がとれる能力を習得する。
- 3 看護を実践するための基礎となる技術を習得する。
- 4 人間の健康上の問題を解決するため, 科学的根拠に基づいた看護が実践できる能力を習得する。
- 5 看護実践を科学的に展開する能力を養い, 研究的態度を身につけることができる。

基礎看護学の構成

基礎看護学(8単位・240時間)	基礎看護学概論	1単位・30時間
	看護の基本となる技術	1単位・30時間
	生活過程をととのえる看護技術	2単位・60時間
	診療に伴う看護技術	1単位・30時間
	臨床看護総論	2単位・60時間
	看護研究	1単位・30時間

基礎看護学実習(2単位・90時間)

授業科目のねらい・内容

授業科目	ねらい	単位	時間	授業内容	担当講師	内 訳		
						担当時間数	講義	演習・実習
基礎看護学概論	1. 看護の概念や定義について学び, 看護の本質について理解する。 2. 患者の生命と人権を擁護する観点から看護職としての役割と責任について学ぶ。	1	30	1. 看護学概論	宮城県高等看護学校 渡邊 久子	20	20	
				2. 看護倫理	渡邊 久子	10	10	
看護の基本となる技術	看護実践の基盤となる基本技術を習得する。	1	30	1. 技術総論 2. 観察技術, 記録・報告 3. コミュニケーション技術 4. 指導技術 5. 安全をまもる技術	宮城県高等看護学校 今春 美香 小西 素子 大宮 美和 大宮 美和 勝然 恵美子	4 6 8 4 8	4 6 8 4 6	
生活過程をととのえる看護技術	日常生活行動の援助において, 看護技術の原理原則を理解し, 各看護学に応用できる能力を身につける。	2	60	1. フィジカルアセスメント 2. 運動と休息 3. 食と排泄 4. 清潔と衣生活 5. 環境を整える	宮城県高等看護学校 勝然 恵美子 小西 素子 兼田 裕子 小西 素子 今春 美香	14 14 14 14 4	10 10 10 10 4	4 4 4 4 4
診療に伴う看護技術	診断・治療を受ける対象に安全にかつ正確に実施できる能力を身につける。	1	30	1. 診断・治療過程と看護	宮城県高等看護学校 勝然 恵美子	10	6	4
				2. 与薬と看護 3. 医療用機器の原理と実際	今春 美香 宮城県立がんセンター 齋藤 美香	16 4	8 4	8 4
臨床看護総論	健康のレベルに応じた看護の対象を理解し, 必要な看護を導くための科学的な思考プロセスを学ぶ。	2	60	1. 病気の捉え方 2. 看護過程展開の技術 3. 看護実践の振り返り	宮城県高等看護学校 今春 美香 小西 素子 他 小西 素子 他	8 38 14	8 14 2	4 24 12
	看護研究の意義及び目的を理解し, 看護実践を科学的に展開する	1	30		宮城県高等看護学校			

看護研究	し、看護実践を科学的に展開する能力を身につけることを通して看護観を深める。			1. 看護研究の基本的知識 2. 看護研究（ケーススタディ）活動の実際 3. 看護研究（ケーススタディ）発表	大友 正子 他	30	10	20
基礎看護学実習	既習の知識・技術を統合させ、対象に適した看護を実践するための基礎的な知識・技術・態度を修得する。	2	90	1. 看護の対象を理解し、看護の必要性を明らかにする。 2. 看護過程技術を用い対象に必要な看護の実践を行う。	宮城県高等看護学校 小西 素子 他	90		90

専門分野Ⅱ「成人看護学」

目的

成人期にある対象と家族の特徴を理解し、健康の保持増進と疾病予防および健康障害時の看護を
実践できる能力を養う。

目標

- 1 成人期にある対象の特徴をからだ・こころ・社会関係から理解する。
- 2 成人期にある対象にとって最適な健康を保持増進するための看護の役割を学ぶ。
- 3 成人期にある対象の健康上の諸問題を知り、健康状態に応じた看護を理解する。

成人看護学の構成

成人看護学 (4単位・120時間)

- 成人看護学概論 (1単位・30時間)
- 成人看護方法論Ⅰ (1単位・30時間)
- 成人看護方法論Ⅱ (1単位・30時間)
- 成人看護方法論Ⅲ (1単位・30時間)

成人看護学実習 (2単位・90時間)

授業科目のねらい・内容

授業科目	ねらい	単位	時間	授業内容	担当講師	担当 時間数	内 訳	
							講義	演習・実習
成人看護学概論	1. 成人期の対象の特徴を理解する。 2. 成人期における保健活動の意義を理解し、健康の保持・増進をはかる援助を学ぶ。 3. 健康障害をもつ患者及び家族の状態に応じた看護を学ぶ。	1	30	1. 成人と生活 2. 生活と健康 3. 成人への看護アプローチの基本 4. 成人の健康レベルに対応した看護 1) 健康生活をはぐくむ看護 生活ストレスと看護 2) 健康生活の急激な破綻から回復を促す看護 ・化学療法時の看護 ・放射線療法時の看護 3) 健康生活の慢性的な揺らぎの再調整を促す看護 4) 障害を持ちながらの生活とリハビリテーション 5. 人生の最期のときを支える看護 1) 終末期医療の現状 2) 人生最期の時を過ごしている人の理解 3) 人生最期のときを支える看護援助	宮城県高等看護学校 大友 正子	14	14	
					宮城県立がんセンター 高子利美 宮城県立がんセンター 熊谷直美	2	2	
					宮城県立がんセンター 佐々木 晴美	12	12	
成人看護方法論Ⅰ	1. 生命を維持する機能に障害のある患者及びその家族への看護を学ぶ。 2. 生命の危機的状況にある患者及びその家族への看護を学ぶ。	1	30	1. 生命を維持する機能に障害のある患者の看護 1) 症状・検査・治療と看護 2) 疾患をもつ患者の看護 3) 看護技術 ・心電図モニター ・人工呼吸器装着中のケア ・低圧胸腔内持続吸引中のケア ・12誘導心電図 ・酸素ボンベの操作 ・体位ドレナージ 2. 救急時の看護と実際 1) 心肺蘇生法とAED	東北医科薬科大学病院 佐々木亜矢子	20	8	
					東北医科薬科大学病院 岩間由希子		6	
					宮城県高等看護学校 大友 正子 他		6	
					仙台赤十字病院 金谷 瞳	10	6	
					救急救命士		4	

成人看護方法論Ⅱ	<p>1. 消化機能、代謝機能に障害のある患者及びその家族への看護を学ぶ。</p> <p>2. 排泄機能に障害のある患者及びその家族への看護を学ぶ。</p> <p>3. 女性生殖機能に障害のある患者及びその家族への看護を学ぶ。</p>	1	30	<p>1. 消化機能、代謝機能に障害のある患者の看護</p> <p>1) 症状・検査・治療と看護</p> <p>2) 疾患をもつ患者の看護</p> <p>3) 看護技術</p> <ul style="list-style-type: none"> ・簡易血糖測定法 <p>2. 排泄機能に障害のある患者の看護</p> <p>1) 症状・検査・治療と看護</p> <p>2) 疾患をもつ患者の看護</p> <p>3) 看護技術</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ストーマ管理 <p>3. 女性生殖機能に障害のある患者の看護</p> <p>1) 症状・検査・治療と看護</p> <p>2) 疾患をもつ患者の看護</p> <p>3) 看護技術</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リンパマッサージ 	東北公済病院 斎藤麻里子	20	20
成人看護方法論Ⅲ	<p>1. 周術期の看護について学ぶ。</p> <p>2. 手術を受ける患者の看護過程展開及び看護技術を学ぶ。</p>	1	30	<p>1. 周術期の患者の看護</p> <p>1) 周術期の看護</p> <p>2) 看護技術</p> <ul style="list-style-type: none"> ・術前処置 ・ドレーン管理 ・術後の病床環境調整 ・術後患者の観察 ・離床の援助 <p>3) 手術を受ける患者の看護過程展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・紙上事例 	<p>仙台赤十字病院 島原美記 三浦静江</p> <p>宮城県高等看護学校 大友正子 他</p>	12	10 2 6 12
成人看護学実習	成人期にある対象を総合的に理解し、健康段階に応じた看護が実践できる。	2	90	1. 病院実習 成人期の特徴をふまえ、周術期にある対象の看護の必要性を明らかにし、回復過程に応じた看護を実施する。またチーム医療の実際を学び、看護の役割を考える。	宮城県高等看護学校 大友正子 他	90	90

専門分野Ⅱ 「老年看護学」

目的

老年期にある対象の特性を理解し、様々な健康段階にある対象とその家族に対して、QOLを考えた看護を実践する能力を養う。

目標

- 1 老年期にある対象を、からだ・こころ・社会関係から統合し理解する。
- 2 人口の高齢化や社会構造の変化に伴う保健医療福祉の問題と対策を理解する。
- 3 老年期にある対象が生きてきた時代背景や生活史を理解し、人格と生命を尊重することの大切さを理解する。
- 4 加齢に伴う健康状態の変化を理解し、老年看護の機能と役割を理解する。
- 5 老年期にある対象の加齢や疾病・障害の程度に応じた看護実践の必要性を理解し、日常生活支援の方法について習得する。

老年看護学の構成

老年看護学(3単位・75時間)	老年看護学概論 老年看護方法論Ⅰ 老年看護方法論Ⅱ	1単位・30時間
		1単位・15時間
		1単位・30時間

老年看護学実習
(2単位・90時間)

授業科目のねらい・内容

授業科目	ねらい	単位	時間	授業内容	担当講師	担当時間数	内 訳			
							講義	演習	実習	
老年看護学概論	1. 老年期にある対象の加齢に伴う、からだ・こころ・社会関係の変化を知り、その健康課題を理解する	1	30	1、高齢者の理解 1) ライフステージからの高齢者の理解 2) 加齢に伴う変化	宮城県 高等看護学校 今春美香	10	10			
	3) 高齢者の心理			東北福祉大学 加藤伸司						4
	2. 社会構造の変化・高齢化に伴う高齢者の課題を理解する			2、高齢者をめぐる社会の現状 1) 高齢者の統計的特徴 2) 高齢者と家族 3) 倫理的課題	宮城県 高等看護学校 今春美香	6	6			
	3. 高齢社会における様々な看護活動について理解する			3、高齢者のQOL 4、老年看護の機能と役割						
				5、高齢者の保健医療福祉政策 1) 老人保健・福祉対策 2) 介護保険法	うらやす 特別養護老人ホーム 佐々木恵子	4	4			
				6、保健医療福祉政策に基づくサービス構成と取り組み 居宅介護サービス 施設サービス 地域密着型サービス						
				7、疾病予防と健康教育						
				8、介護老人福祉施設の見学						
	1. 老年期にある対象を	1	15	1、高齢者の生活を支える看護						

<p>老年看護方法論Ⅰ</p>	<p>生活の視点からアセスメントする方法について理解する 2. 老年期の対象のQOLを支える看護について理解する</p>			<p>1) 生活機能のアセスメント 2) 高齢者模擬体験 3) 支援の実際 ① 生活の支援 ② 口腔機能の維持・向上の支援</p>	<p>宮城県 高等看護学校 今春美香 宮城県 歯科衛生士会 人見早苗</p>	<p>11 4</p>	<p>7 2</p>	<p>4 2</p>
<p>老年看護方法論Ⅱ</p>	<p>1. 老年期にある対象の加齢及び健康障害の程度に応じた看護を理解する</p>	<p>1</p>	<p>30</p>	<p>1. 疾患を持つ高齢者への看護ケア 1) 脳血管疾患をもつ高齢者の看護 (1) 観察とアセスメント (2) 身体機能維持・回復を促す支援の方法 (3) 高次機能障害をもつ対象の支援 (4) 支援の実際(演習) 2) 認知症をもつ高齢者の看護 (1) 認知症の理解 (2) 観察とアセスメント (3) 支援の方法 (4) 看護の役割と多職種との連携 (5) 認知症を持つ患者と家族の支援 3) 運動機能障害をもつ高齢者の看護 (1) 日常生活動作のアセスメントと支援の方法 (2) 外科的治療を受ける患者の支援の方法</p>	<p>東北公済病院 尾形良子 東北医科薬科大学 佐藤 滋 仙台楽生園 小関ゆみ 仙台赤十字病院 成田 静</p>	<p>14 4 6 6</p>	<p>10 4 6 6</p>	<p>4 4 6 6</p>
<p>老年看護学実習</p>	<p>老年期にある対象を総合的に理解し、健康段階に応じた看護が実践できる能力を養う</p>	<p>2</p>	<p>90</p>	<p>病院実習 老年期にある対象の特性と健康段階を把握し、個別性に応じた看護計画を計画し、患者と家族に対して援助を行う</p>	<p>宮城県 高等看護学校 今春美香 他</p>	<p>90</p>		<p>90</p>

専門分野Ⅱ「小児看護学」

目的

小児各期の特徴を理解し、社会の変化が小児にどのように影響しているかを考え、小児の発達に応じた看護と健康障害をもつ小児と家族の看護について学ぶ。

目標

- 1 小児を一人の人格をもった人間として尊重する姿勢を養う。
- 2 小児各期の特徴と成長発達について理解する。
- 3 健康な小児の日常生活を理解し、成長発達に応じた養護を学ぶ。
- 4 健康障害のある小児と家族の看護を学ぶ。
- 5 小児に関わる保健・医療・教育機関との連携及び看護の役割を学ぶ。
- 6 小児とその家族を取り巻く社会の状況と動向、社会が小児に及ぼす影響を理解する。

小児看護学の構成

小児看護学(4単位・90時間)	小児看護学概論 (1単位・30時間) 小児看護方法論Ⅰ (1単位・15時間) 小児看護方法論Ⅱ (1単位・30時間) 小児看護方法論Ⅲ (1単位・15時間)
小児看護学実習(2単位・90時間)	

授業科目ごとの教育内容

授業科目	ねらい	単位	時間	授業内容	担当講師	担当時間数	内 訳	
							講義	演習/実習
小児看護学概論	1. 小児各期の特徴と成長発達について学び、小児看護の特徴を理解する。 2. 小児を取り巻く環境と健康問題および保健・医療・福祉・教育の法律と諸制度について学び小児看護の役割を理解する。	1	30	1. 小児看護の特徴と理念 2. 小児各期の成長発達 3. 小児と家族の諸統計 4. 小児看護における倫理 5. 小児看護の課題 6. 小児の栄養 7. 健康な小児の日常生活 8. 小児の疾病予防と健康教育 9. 小児と家庭 10. 小児と社会 11. 現代社会における小児の諸問題	宮城県高等看護学校 須藤 洋子	30	30	
小児看護方法論Ⅰ	1. 健康障害が小児の成長発達に与える影響を理解し、小児看護に必要な技術や状況に応じた看護を学ぶ。 2. 障がいとは何かがわかり、障がいをもちながら成長発達している小児と家族への看護を学ぶ。	1	15	1. 小児のアセスメント 2. 健康障害障がいがある小児と家族の看護 3. 症状を示す小児の看護 4. 健康障害をもつ小児の生活と看護 5. 障がいがある小児と家族の看護 6. 検査・処置を受ける小児の看護	宮城県立こども病院 高橋 桃子	15	13	2
小児看護方法論Ⅱ	健康障害の特徴を理解し、小児と家族について身体的・精神的・社会的側面から看護判断ができ、必要な看護について学ぶ。	1	30	1. 小児感染症 2. 免疫・アレルギー疾患 3. 消化器疾患 4. 呼吸器疾患 5. 腎・泌尿器疾患と看護 6. 免疫・アレルギー疾患と看護 7. こどもの虐待と看護 8. 手術を受ける小児の看護 9. 循環器疾患と看護 10. 消化器疾患と看護 11. 糖尿病の小児の看護 12. 悪性新生物と看護 13. 終末期の小児の看護 14. 神経疾患と看護 15. 運動器疾患と看護 16. 精神疾患と看護 17. 事故・外傷と看護	萱場小児科医院 萱場 潤 なるみ赤ちゃんこどもクリニック 鳴海 僚彦 いたのこどもクリニック 板野 正敬 仙台赤十字病院 高橋 直子 宮城県立こども病院 加藤 優子 宮城県立こども病院 佐藤 茜	6 2 2 6 8 6	6 2 2 6 8 6	

小児看護方法論Ⅲ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児の健康レベルに応じた看護過程展開技術を習得する。 2. 小児の基本的な援助技術を習得する。 	1	15	<ol style="list-style-type: none"> 1. 事例展開 2. 小児看護に必要な技術演習 	宮城県高等看護学校 須藤 洋子	15		15
小児看護学実習	小児期の特徴と小児を取り巻く環境を理解し、成長発達を促す援助と健康の段階に応じた看護を実践できる能力を養う。	2	90	<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康な小児の特徴と小児を促す援助を学ぶ。 2. 小児の権利を尊重した環境を理解するとともに施設の特徴を学ぶ。 3. 小児期の対象を理解し健康回復を目指して小児と家族へ切な看護を実践できる能力を養う。 	宮城県高等看護学校 須藤 洋子 他	90		90

専門分野Ⅱ 「母性看護学」

目的

母性看護の対象と役割をリプロダクティブヘルスライツの概念から広くとらえ、母性の役割機能を遂行するための看護について学ぶ。

目標

- 1 母性看護の対象を理解する。
- 2 母性看護の意義と役割について理解する。
- 3 女性をとりまく社会の現状と課題を制度や法律と関連して母性保護の意義を理解する。
- 4 母性の一生を通じた健康の保持増進への援助について学ぶ。
- 5 周産期の看護を学ぶ。
- 6 自己の健全な母性(父性)形成を促す。

母性看護学の構成

母性看護学(4単位・90時間)	母性看護学概論 (1単位・30時間)
	母性看護方法論Ⅰ (1単位・30時間)
	母性看護方法論Ⅱ (1単位・15時間)
	母性看護方法論Ⅲ (1単位・15時間)

母性看護学実習(2単位・90時間)

授業科目ごとの教育内容

授業科目	ねらい	単 位	時 間	授業内容	担当講師	担 当 時 間 数	内 訳		
							講 義	演 習	実 習
母性看護学概論	1. 母性の概念を捉え、母性の対象および特徴を理解し、母性看護の意義と役割を学ぶ。 2. 健全な母性への準備の看護や母性の保持増進への看護、健全な家庭づくりへの看護について学ぶ。	1	30	1. 母性看護の基本となる概念 2. 母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現況 3. 母性看護の対象理解 4. 母性看護に必要な看護技術 5. 女性のライフステージ各期における疾病予防と健康教育 6. リプロダクティブヘルスケア	早坂 ひかり 八幡 悦子	14 16	14 14	 2	
母性看護方法論Ⅰ	妊娠・分娩・産褥・新生児の正常経過を理解し、周産期にある母子の健康を保持・増進するための看護について学ぶ。	1	30	1. 妊娠の正常と看護 2. 分娩の正常と看護 3. 産褥の正常と看護 4. 新生児の正常と看護	東北公済病院 齋野 真実 仙台赤十字病院 齋藤 恵理子	14 16	12 14	2 2	
母性看護方法論Ⅱ	妊娠・分娩・産褥・新生児の異常とその看護について学ぶ。	1	15	1. 妊娠・分娩・産褥 新生児の異常と看護 2. 遺伝相談	仙台赤十字病院 高橋 真由子 仙台赤十字病院 鈴木 久也	10 5	10 5		
母性看護方法論Ⅲ	1. 妊娠・分娩・産褥・新生児期の看護ができるための基礎的知識・技術を修得する。 2. 産褥期の母子の看護過程を講義で学んだ内容をもとに展開できる。	1	15	1. 母子の看護過程展開 2. 母性看護に必要な知識の確認 3. 母性看護技術	宮城県高等看護学校 勝然 恵美子	 15	 15		

母性看護学実習	周産期における母子の特性を理解し、必要な看護を実践できる能力を養う。	2	90	<p>1. 母子の看護の必要性を理解し必要な看護を計画し実施・評価できる。</p> <p>2. 生命の尊厳に対する考えを養うとともに、母性(父性)観を養うことができる。</p> <p>3. 妊娠期の母児の正常な経過を理解し、対象に必要な看護を考えることができる。</p> <p>4. 母子保健を担う一つの分野である開業助産師の活動を通して、地域での母子の生活とそれを支える母子保健活動の実際を学ぶ。</p>	宮城県高等看護学校 勝然 恵美子 他	90		90
---------	------------------------------------	---	----	---	-----------------------	----	--	----

専門分野Ⅱ「精神看護学」

目的

人間のライフサイクルにおける精神の健康の意義を認識し、保健医療福祉チームにおける看護の機能と役割について理解し、精神の健康の増進をはかるための基礎的実践力を身につける。

目標

- 1 人間のライフサイクルにおける精神の発達及び働きを理解する。
- 2 精神の発達課題に関連した健康問題を理解し、危機介入における看護の役割を学ぶ。
- 3 地域社会において精神の健康の増進をはかるための地域精神保健活動を理解し、看護の役割を学ぶ。
- 4 精神障害をもつ対象を理解し、回復過程を支援する看護を実践できる能力を養う。

精神看護学の構成

精神看護学(3単位・90時間)

{	精神看護学概論	1単位・30時間
	精神看護方法論Ⅰ	1単位・30時間
	精神看護方法論Ⅱ	1単位・30時間

精神看護学実習(2単位・90時間)

授業科目ごとの教育内容

授業科目	ねらい	単位	時間	授業内容	担当講師	担当時間数	内 訳		
							講義	演習	実習
精神看護学概論	1. 人間をとりまく社会環境と精神の健康及び不健康の関連を理解する。 2. 精神看護学の領域と看護の役割を理解する。 3. 精神医療の歴史を学び、精神科看護の現状との関連を理解する。	1	30	1. 社会環境の変化と精神の健康 2. 精神の健康と不健康の考え方 3. 精神科看護から精神看護学への発展 4. 精神看護学の領域と看護の役割 5. 精神障害をもつ対象理解の方法 6. 精神医療の歴史的変遷と看護 7. 精神看護学の機能と課題	宮城県高等看護学校 大宮 美和	22	22		
				宮城県立 精神医療センター 藤原 千尋	8	8			
精神看護方法論Ⅰ	1. 人間関係の基本となる心の働きを理解し、心の健康を保持する技術を学ぶ。 2. 心の発達と課題を理解し、精神の健康問題との関連を理解する。 3. 地域社会で健康に生活することを支援する地域精神保健活動の展開及び精神保健福祉制度について理解する。 4. 精神障害をもつ人の自立を支援するための保健医療チームにおける看護の役割を学ぶ。	1	30	1. 心の発達と健康 2. 人間関係と心の働き 3. 環境と心の働き	二井 奏子	10	10		
				4. 危機状況と心の働き 5. 危機介入と精神的不健康の予防	宮城県立 精神医療センター 坂本 由郁	8	8		
				6. 地域精神保健活動とリハビリテーションにおける看護の役割 7. 自立を支援する精神保健福祉制度	向日葵ライフサポート センター 片寄 篤志	6	6		
8. 病院におけるリハビリテーション活動と看護の役割 9. 自立を支援する保健医療チームのあり方	宮城県立 精神医療センター 酒井 道代	6	6						

精神看護方法論Ⅱ	<p>1. 精神障害の診断及び治療を理解する。</p> <p>2. 精神障害による主要な精神症状を理解し、その緩和をはかるための看護を学ぶ。</p> <p>3. 主な精神障害に対する看護の基本を理解し、回復過程を支援する看護の技術を学ぶ。</p>	1	30	<p>1. 精神障害の診断と治療</p> <p>2. 患者家族の理解と援助</p> <p>3. 主要症状に対する看護技術</p> <p>4. 主たる精神障害に対する看護方法</p> <p>5. 生活過程の援助技術</p>	<p>NTT東日本株式会社 野村 綾</p> <p>宮城県立 精神医療センター 大沼直樹</p> <p>宮城県立 精神医療センター 鈴木 亮</p>	10	10		
精神看護学実習	<p>1. 精神障害をもつ対象を理解し、回復過程を支援する看護を実践できる能力を養う。</p>	2	90	<p>1. 病院に入院している対象を受け持ち、対象に必要な看護の実践</p> <p>2. 精神障害を持ち地域社会で生活する対象理解と自立支援の実際</p>	宮城県高等看護学校 大宮 美和 他	90			90

統合分野「在宅看護論」

目的

地域で生活しながら療養する人々、障害をもっている人々とその家族を理解し、在宅看護が実践できる基礎的な能力を養う。

目標

- 1 地域で療養及び障害をもって生活する対象の特性とその家族を理解する。
- 2 在宅看護の意義と役割について理解する。
- 3 在宅ケアサービスとシステムについて学び、他職種との協働を通して支援する必要性を理解する。
- 4 在宅で療養する人々とその家族への看護の方法を理解する。

在宅看護論の構成

在宅看護論（3単位・75時間）

在宅看護概論	1単位・15時間
在宅看護方法論Ⅰ	1単位・30時間
在宅看護方法論Ⅱ	1単位・30時間

在宅看護論実習（2単位・90時間）

授業科目のねらい・内容

授業科目	ねらい	単位	時間	授業内容	担当講師	担当時間数	内訳				
							講義	演習	実習		
在宅看護概論	在宅看護の対象を理解及び特徴を理解し、生活する場で看護を提供することの意義と役割を学ぶ。	1	15	序章	公益財団法人宮城厚生協会 永井知枝	11	9	2			
				1. 在宅看護の目ざすもの 2. 在宅看護の対象 1) 対象者の特徴 2) 住まい方と健康 3) 家族 3. 在宅看護における看護師の役割 4. 療養の場の移行（退院調整）	東北医科薬科大学病院 小畑ひろみ					4	4
在宅看護方法論Ⅰ	訪問看護のしくみやその看護過程および在宅ケアシステムについて学び、さらに関係機関・他職種との連携・協働について学ぶ。 在宅療養者とその家族への看護について理解する。	1	30	1. 在宅療養の支援 在宅看護の基本となるもの	あおい訪問看護ステーション 小野 久恵	12	10	2			
				2. 在宅看護にかかわる法令・制度とその活用 3. 在宅看護の展開 4. 災害に対する準備と対応	ないとうクリニック訪問看護ステーション 松浦 千春					4	4
				5. 在宅における医療の実際 6. 事例にみる在宅看護 1) 在宅ターミナルケア 2) 在宅酸素療法をしている療養者 3) 在宅の認知症高齢者 その他	松田病医院 佐藤 智 はづき訪問看護ステーション 谷川 禎子 KKR公済訪問看護ステーション 安藤恵美						

在宅看護方法論Ⅱ	在宅で必要とする看護技術および治療処置に関する基本的知識とそれに伴う看護について学び、根拠をもち対象へ応用できる基礎的技術を習得する。	1	30	<p>1. 在宅看護における安全性の確保</p> <p>1) 在宅看護におけるリスクの特徴</p> <p>2) 医療事故防止</p> <p>2. 在宅看護技術、在宅医療技術</p> <p>1) 呼吸機能に関する在宅看護技術 気管内吸引</p> <p>2) 食生活に関する在宅看護技術 在宅中心静脈栄養法 経管栄養法</p> <p>3) 排泄に関する在宅看護技術 膀胱留置カテーテル</p> <p>4) 清潔・移動に関する在宅看護技術</p> <p>5) 褥瘡</p> <p>6) 腹膜透析</p>	宮城県高等看護学校 宮川暁子 今春美香 兼田裕子	2	2	28	6	4	4	
在宅看護論実習	在宅で療養する人とその家族の健康問題を理解し、在宅看護が実践できる能力を養う。	2	90	<p>1. 訪問看護を利用している在宅療養者への看護実践及び他職種との連携について理解する。</p> <p>2. 地域包括支援センターの役割について学ぶ。</p>	宮城県高等看護学校 宮川暁子・他	90						90

統合分野「看護の統合と実践」

目的

基礎分野から専門分野Ⅱまでに学んだ知識・技術を統合し、臨床実務に即した看護を実践できる能力を養う。

目標

- 1 看護マネジメントについて基礎的知識を修得する。
- 2 医療安全の専門的な知識や組織的な活動について学び、医療安全行動について理解する。
- 3 災害直後より支援できる看護の基礎知識を修得できる。
- 4 日本における国際看護協力の実情を学び、看護師として諸外国の協力について広い視野立って考えられる。
- 5 臨床の看護場面に応じた判断について学び、看護実践能力を養う。

看護の統合と実践の構成

看護の統合と実践（4単位・90時間）	{	看護管理	1単位・15時間
		医療安全	1単位・30時間
		災害・国際看護	1単位・15時間
		臨床看護の実践	1単位・30時間

統合実習（2単位・90時間）

授業科目ごとの教育内容

授業科目	ねらい	単位	時間	授業内容	担当講師	担当時間数	内 訳		
							講義	演習	実習
看護管理	看護管理の目的と機能について理解できる。 組織の一員としての看護師の役割が理解でき、リーダーシップ・メンバーシップが理解できる。 ケアマネジメントの基本的な考え方が理解できる。	1	15	1. 看護とマネジメント 2. 看護ケアのマネジメント 6. 看護を取り巻く諸制度 3. 看護サービスのマネジメント 4. 看護職のキャリアマネジメント 5. マネジメントに必要な知識と技術 ・ケア実践における多重課題・割り込み・タイムプレッシャー等に対する問題解決について	東北医科薬科大学病院 加藤千佳子	7	7		
					東北医科薬科大学 若林病院 若生さと子	8	6	2	
医療安全	医療における安全管理の必要性とその内容について理解できる。 医療事故の事例から安全管理の方法を理解する。	1	30	医療安全を学ぶことの大切さ 1. 事故防止の考え方を学ぶ 6. 医療安全とコミュニケーション 7. 看護師の労働安全衛生上の事故防止 8. 組織的な安全管理体制への取り組み 9. 医療安全対策の国内外の潮流 2. 診療の補助業務の事故防止Ⅰ 3. 診療の補助業務の事故防止Ⅱ 4. 療養上の世話の事故防止 5. 業務をこえて共通する間違	宮城県立精神医療センター 岩倉 成美	12	12		
					宮城県立がんセンター 菱沼 和子	18	16	2	

災害・国際看護	<p>災害が人々の健康と生活に及ぼす影響を理解し、地域全体で災害から人々の健康と生活をまもるための看護の役割と基礎的な知識・技術を学ぶ。</p> <p>諸外国における看護活動の実際とその意義が理解できる。</p>	1	15	<ol style="list-style-type: none"> 災害時における看護 <ol style="list-style-type: none"> 災害看護の概念と構造 災害と健康 災害サイクルに沿った看護活動 心理的回復の過程 災害への備えとそのシステム 看護の国際協力 <ol style="list-style-type: none"> 諸外国における看護活動 日本における国際看護協力の歴史と現状 	<p>仙台赤十字病院</p> <p>鈴木由美</p> <p>高橋直子</p> <p>丸山 景子</p>	13	11	2
臨床看護の実際	<p>複数患者への看護実践における多重課題・割り込み・タイムプレッシャーなどに対する問題解決能力を高める。</p>	1	30	<ol style="list-style-type: none"> 臨床の看護場面を想定した看護 複数患者の状況アセスメント ケアマネージメント(割り込み課題・タイムプレッシャーに対する) 日常生活援助及び治療処置など複合した援助技術を要する対象への援助(説明・実施) 	<p>宮城県高等看護学校</p> <p>他</p> <p>渡邊 久子</p>	30	2	28
統合実習	<p>看護の基礎知識・技術を基盤に、チーム医療の実際を知ることによって統合力を強化し、看護実践能力を養う。</p>	2	90	<ol style="list-style-type: none"> 対象に必要な看護を適切に判断し実践できる。 複数患者を受け持ち、優先順位と時間管理を考えた実践がわかる。 看護チームの一員として、リーダーシップ、メンバーシップの実際がわかる。 病棟における医療安全について学ぶ。 	<p>宮城県高等看護学校</p> <p>他</p> <p>渡邊 久子</p>	90		90